

消防団員の確保について（大学との連携・DXを活用した団員募集）

アナ： 「市長が語る2025三島」第6回の今日は、「消防団員の確保」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 消防団員の確保についてということですが、はじめに、三島市の消防団員数の現状はどうなっているのでしょうか。

市長： 少子高齢化の進行や地域社会、就業構造、国民意識などの変化に伴いまして、全国的に新たに消防団員として参加する若者が年々減少しております。三島市におきましても定員491人のところ、令和7年4月1日現在で352人、充足率71.7%と定員割れが続いておりますので、団員の確保が喫緊の課題となっています。

アナ： 少子高齢化や人口減少が続いている中で、消防団を取り巻く環境も厳しさを増していますね。こうした中で、市では団員確保にどういった方策を取っているのでしょうか。

市長： 市では、地域防災の要である消防団員の減少に歯止めをかけ、消防力を維持していくために、自治会や地域の事業所、市内の大学と連携・協力しながら若い団員の確保を推進しております。特に市内の日本大学国際関係学部では、入学ガイダンスの際、すべての新入生に消防団員募集のリーフレットを配布しているほか、4月のサークル勧誘の時期には、学内の他のサークル勧誘に混ざって、丸1週間消防団ブースを設置し団員の勧誘を行っております。こうした取り組みが実を結び、令和5年度と令和6年度には防災やボランティアに关心のある多くの学生さんに入団していただきました。また、学生として入団された若者が、更に友達を誘って入団に繋がるという好循環も生まれております。

アナ： 大学生のサークルに勧誘に混ざって消防団が1週間に渡る勧誘というのはかなり力をいれていますね。防災やボランティアに关心のある多くの若い方に入団していただいたということで、心強いですね。他には何か団員確保の方策があるのでしょうか。

市長： 今年度は若い消防団員の確保を更に推進していくため、DXを活用した消防団のPRと団員募集広告の配信を実施してまいります。具体的には、デジタル媒体の活用が盛んな10代から30代までの若い世代をターゲットに、新時代の消防団活動として消防団ドローン隊、女性団員等の活動にフォーカスした動画コンテンツを制作し、これをWeb、SNS、動画サイト等に広告配信して消防団員の募集と消防団のイメージアップを図っていくものでございます。

アナ： 私もスマートフォンで SNS や YouTube を見ることがありますけど、たまに広告が表示されて思わず見てしまうことがあるのですが、三島市の消防団に関してそういういた動画や広告が表示されるということですね。昨年度このコーナーでご紹介いただいたドローン隊や女性団員にもフォーカスするということで、まさに新時代の消防団を感じさせるものですね。これまでにない効果が期待できそうです。

市長： 三島市の18～39歳の人口が約21,000人いらっしゃいますが、これまでの広報誌や団員募集チラシといった紙媒体では広報が行き届かなかった方々に対しましても、この事業の実施によりまして、消防団のPRや団員の募集情報がデジタル媒体を活用する多くの学生や若者に届きやすくなり、在学や在勤を含めた市内全域の若い世代が消防団に興味・関心を持っていただく機会となります。

更にはこれが入団に繋がることによって、地域の分団の活性化と消防団の災害対応能力の維持・強化が図られることとなるため、市でも広告配信の効果に期待しているところです。

アナ： どんな広告が配信されるか、私も今からとても楽しみです。消防団員の確保について、最後に何かお伝えしたいことがありましたらお願いします。

市長： 昨今、災害はますます複雑化・激甚化しております、いつどこで、どんな災害が発生してもおかしくない状況でございます。災害対応には、地域防災の要となる消防団のマンパワーが不可欠です。

これをお聞きになった皆様も是非消防団に関心を持っていただきたいと思います。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。